

2020年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年9月11日

上場会社名 アートグリーン株式会社 上場取引所 名
 コード番号 3419 URL <http://www.artgreen.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 豊
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 芝田 新一郎 (TEL) 03-6823-5926
 四半期報告書提出予定日 2020年9月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年10月期第3四半期の連結業績(2019年11月1日～2020年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年10月期第3四半期	1,388	△9.5	16	△70.9	25	△55.1	0	△98.7
2019年10月期第3四半期	1,533	—	57	—	55	—	32	—

(注) 包括利益 2020年10月期第3四半期 0百万円(△99.3%) 2019年10月期第3四半期 33百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年10月期第3四半期	0.39	0.37
2019年10月期第3四半期	28.90	27.76

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年10月期第3四半期	1,113	445	40.0
2019年10月期	889	444	50.0

(参考) 自己資本 2020年10月期第3四半期 445百万円 2019年10月期 444百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年10月期	—	0.00	—	—	—
2020年10月期	—	0.00	—	—	—
2020年10月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年10月期の連結業績予想(2019年11月1日～2020年10月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2020年10月期の連結業績予想につきましては、合理的に算出することが困難と判断し、未定としております。今後、業績予想の算定が可能になった段階で速やかに公表いたします。なお、該当理由につきましては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、添付資料P. 9「2(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年10月期3Q	1,133,600株	2019年10月期	1,128,400株
② 期末自己株式数	2020年10月期3Q	242株	2019年10月期	242株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年10月期3Q	1,131,285株	2019年10月期3Q	1,127,815株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があり、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い発令されました緊急事態宣言以降、様々なイベントの中止や各業種への営業制限、不要不急の外出自粛等で経済活動が停滞いたしました。その後の緊急事態宣言解除後は経済活動のレベルを段階的に引き上げていくなかで持ち直していくことが期待されておりますが、自粛と緩和の狭間で日本経済は厳しい状況で推移いたしました。また、海外におきましても同様に新型コロナウイルス感染症の拡大は続いており、収束の見通しが立たない状況の中、世界経済も依然として景気の先行き不透明な状況が続いております。

花き業界においては、5月の母の日需要や自粛期間中の家庭内園芸・ガーデニング等への関心が高まり、花や観葉植物のホームユース需要が増加しました。しかしながら緊急事態宣言解除後も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、ブライダルや葬儀をはじめ各種イベント等の開催は相次いで見送られたことから一般贈答用の需要が落ち込み、業界全体の流通量は減少しました。東京都中央卸売市場の市場統計情報によると、2020年5月から2020年7月までのらん鉢取扱金額は887百万円（前年同期比15.8%減）、数量では252千鉢（前年同期比19.2%減）と、いずれも前年同期比減という傾向で推移しております。

このような事業環境の中、フラワービジネス支援事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定されておりましたブライダルの延期や各種イベントの中止が相次ぎ、受注が減少いたしました。主力の法人贈答用胡蝶蘭につきましてもその影響は大きく、緊急事態宣言解除後も従業員や取引先の健康と安全を第一に考え、新規顧客開拓及び既存取引先への訪問も可能な限り自粛し、オンライン等での提案に切り替えて対応してまいりましたが、売上高は前年同期比減で推移いたしました。

ナーセリー支援事業におきましては、引き続き提携農園の生産指導及びオリジナル園芸資材の販売強化に注力し、売上高は堅調に推移いたしました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、提携農園をはじめ各生産者は今後生産数量の調整をすることが考えられるため、各生産者や花き市場との情報共有に取り組んでおります。

販売費及び一般管理費につきましては、残業の抑制を含む人件費の削減や売上高の減少に伴う荷造運賃の減少等により減少いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,388,095千円（前年同期比9.5%減）、営業利益は16,840千円（前年同期比70.9%減）、経常利益は25,086千円（前年同期比55.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は436千円（前年同期比98.7%減）となりました。

なお、当社グループの事業セグメントは単一セグメントであるため、セグメント情報は記載せず、主要な事業について記載しております。

(フラワービジネス支援事業)

フラワービジネス支援事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により予定されておりました結婚式中止及び延期組数が8割を超え、ブライダル業界全体にも大きな影響を与えました。また、ゴールデンウィーク中の移動自粛、東京オリンピックの延期等、様々な式典やイベント開催が中止となり、法人贈答用胡蝶蘭の売上にも大きく影響を与えました。

以上の結果、フラワービジネス支援事業の売上高は933,303千円（前年同期比14.1%減）となりました。

(ナーセリー支援事業)

ナーセリー支援事業につきましては、引き続き提携農園の生産指導、及び復興事業の一環として取り組んでおります。胡蝶蘭栽培での農業再生支援の強化に注力いたしました。また、当社オリジナル園芸資材の販売強化にも努め、新規顧客開拓及び既存取引先への提案も順調に進めることが出来たことから、売上高は堅調に推移いたしました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たず、経済活動と比例して花き流通量も減少しているため、各生産者では可能な限り開花調整等を行いながら対応しておりますが、今後の状況によりましては生産数量の調整等が予測されますので、状況を確認しながら早めの対応と各生産者との情報共有に取り組んでおります。

以上の結果、ナーセリー支援事業の売上高は381,319千円（前年同期比5.2%増）となりました。

(フューネラル事業)

フューネラル事業につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、葬儀規模の縮小等が増加したことから売上に大きな影響を受けました。

葬儀業界の環境としましては、大都市圏を中心に葬儀件数は増加する一方、依然として家族葬や密葬等、葬儀の小型化により葬儀単価は減少傾向にあり、当社におきましても単価の下落傾向が続いております。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、今後も小規模の葬儀が増加するものと考えられますので、葬儀業界全体の環境に合わせながら少数ロットの注文等にも柔軟に対応していくために、既存取引先や葬儀業界関係企業との情報共有に引き続き取り組んでおります。

以上の結果、フューネラル事業の売上高は73,471千円（前年同期比13.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,113,199千円となり、前連結会計年度末と比べ223,722千円増加しました。

流動資産は979,997千円となり、前連結会計年度末と比べ236,270千円増加しました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が8,281千円減少した一方で、現金及び預金が231,036千円増加したことによるものであります。

固定資産は133,201千円となり、前連結会計年度末と比べ12,547千円減少しました。その主な要因は、無形固定資産のその他に含まれておりますソフトウェア仮勘定が6,023千円が増加した一方、投資その他の資産のその他に含まれております繰延税金資産が3,730千円、投資その他の資産のその他に含まれております長期性預金が5,300千円、投資その他の資産のその他に含まれております投資有価証券が3,828千円、投資その他の資産のその他に含まれております敷金及び保証金が3,008千円、のれんが2,311千円それぞれ減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は667,684千円となり、前連結会計年度末と比べ222,668千円増加しました。

流動負債は299,155千円となり、前連結会計年度末と比べ12,256千円減少しました。その主な要因は、1年内返済予定の長期借入金が51,835千円、短期借入金が10,000千円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が28,321千円、買掛金が17,209千円、賞与引当金が10,805千円それぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は368,529千円となり、前連結会計年度末に比べ234,925千円増加しました。その主な要因は、社債が10,000千円減少した一方で、長期借入金が246,274千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は445,515千円となり、前連結会計年度末と比べ1,054千円増加しました。その主な要因は、資本金が405千円、資本剰余金が405千円それぞれ増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

5月の政府による新型コロナウイルス感染症の感染拡大による非常事態宣言の解除後、新しい生活様式の中での経済活動が再開されましたが、7月以降同感染症の感染者数が再び増加傾向にあるなど、未だ感染拡大の収束見通しは不透明な状況が続いております。当社グループが属する花き業界への影響は、ブライダルの延期や各種イベントの中止など厳しい状況が続くことが予想されますが、当社グループは、引き続き花き商品の消費を促す営業活動やコスト削減活動をはじめとするあらゆる挽回策を講じていく所存です。しかしながら、現時点では未確定要素が多く、適正かつ合理的な業績予想の算出が困難な状況であるため、2020年10月期の通期連結業績予想は引き続き未定とさせていただきます。今後、先行きが見通せる状況となりましたら速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	352,115	583,152
受取手形及び売掛金	233,831	225,550
商品及び製品	37,703	40,457
仕掛品	102,885	108,436
原材料及び貯蔵品	74	74
その他	31,524	41,657
貸倒引当金	△14,407	△19,331
流動資産合計	743,727	979,997
固定資産		
有形固定資産	18,188	17,549
無形固定資産		
のれん	28,503	26,192
その他	5,082	9,600
無形固定資産合計	33,585	35,792
投資その他の資産		
その他	105,854	88,177
貸倒引当金	△11,879	△8,318
投資その他の資産合計	93,975	79,858
固定資産合計	145,749	133,201
資産合計	889,476	1,113,199
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	71,108	53,898
短期借入金	—	10,000
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
1年内返済予定の長期借入金	84,244	136,079
未払法人税等	28,321	—
賞与引当金	17,659	6,853
株主優待引当金	2,147	—
その他	87,931	72,323
流動負債合計	311,412	299,155
固定負債		
社債	40,000	30,000
長期借入金	87,910	334,184
その他	5,693	4,345
固定負債合計	133,603	368,529
負債合計	445,015	667,684

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	139,732	140,138
資本剰余金	91,717	92,122
利益剰余金	212,352	212,789
自己株式	△465	△465
株主資本合計	443,337	444,585
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,123	929
その他の包括利益累計額合計	1,123	929
純資産合計	444,460	445,515
負債純資産合計	889,476	1,113,199

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年7月31日)
売上高	1,533,573	1,388,095
売上原価	863,532	796,128
売上総利益	670,040	591,967
販売費及び一般管理費	612,219	575,126
営業利益	57,821	16,840
営業外収益		
受取利息	58	64
受取配当金	74	71
受取助成金	—	11,936
持分法による投資利益	156	—
その他	359	1,095
営業外収益合計	649	13,168
営業外費用		
支払利息	988	1,213
持分法による投資損失	—	3,549
その他	1,631	160
営業外費用合計	2,620	4,922
経常利益	55,849	25,086
特別利益		
受取出向料	1,775	—
特別利益合計	1,775	—
特別損失		
たな卸資産処分損	—	17,217
特別損失合計	—	17,217
税金等調整前四半期純利益	57,624	7,868
法人税、住民税及び事業税	21,410	3,615
法人税等調整額	3,209	3,816
法人税等合計	24,619	7,431
四半期純利益	33,005	436
非支配株主に帰属する四半期純利益	412	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	32,592	436

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)
四半期純利益	33,005	436
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	△194
その他の包括利益合計	2	△194
四半期包括利益	33,007	242
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,594	242
非支配株主に係る四半期包括利益	412	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。